

あまりん



【上新田】いちごドリーム江南
新井 進さん、節子さん



【太井】嶋村屋 熊谷いちご園
嶋村 正樹さん



【上中条】いちごファームKumagaya
茂木 富之さん(右)

埼玉県オリジナルいちご品種

「かおりん」「あまりん」

赤いキュートな“いちご”が勢ぞろい♪

いちご狩り・直売をしています。

ぜひ推し“いちご”を見つけてみてね☆

◆平成28年、埼玉県は直売や摘み取りに適したいちご品種を開発しました。

新年のあいさつ



熊谷市農業委員長
木部 富次

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

去年は、円安の急激な進行による家計への圧迫、またロシアによるウクライナ侵攻により世界経済までもが脅かされ、大変な影響を受けたことによる食糧難となり、栄養不足の子どもたちが増加していることに我々も決して目を背けてはならないと考えさせられる一年でもありました。

農業経営については、いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、また昨今の世界情勢や想定外の災害による影響も大きくなっています。特に、昨年5月末の降ひょう被害などは、私も埼玉県農業共済組合北部統括支所の職員と共に、市内の各圃場の被害調査巡回のおり、江南地区においては目を疑う光景を目の当たりにし、啞然とさせられた年でもありました。

昨今、農業者の減少の加速化が見込まれる中、生産の効率化やスマート農業の展開等を通じた農業の成長産業化に向け、分散^{さくは}錯圃の状況を解消し、農地の集約化を進めるとともに、人の確保育成を図る措置を講ずることが必要であると考えるところでもあります。

農業委員会組織は、「かけがえない農地と担い手を守り、力強い農業をつくる架け橋」という組織理念のもと、農業委員、農地利用最適化推進委員を中心に、本市の農業振興活動に力を注ぐ覚悟でおりますので、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭に当たっての挨拶といたします。



熊谷市長
小林 哲也

あけましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた新しい年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

うちわ祭や産業祭をはじめ、様々なイベントが少しずつ再開され、手探りながらコロナとの共生が進んでいるように思います。本年もそうした流れが続き、皆様の日常がより活気づきますことを心から願う次第であります。一方、去年は世界情勢の不安定化が進み、その影響が為替相場にも波及し、日々の暮らしに欠かせない食料はもとより、資材など多くのものの価格が高騰している状況であり、安定化、鎮静化が強く望まれているところです。

さて、熊谷市長として、市政の舵取り役を担わせていただくこととなり1年が過ぎ、より元気のあるまちづくり、新熊谷プライドの創造に向けて積極的に行動してまいります。私の政策の大きな柱の一つである「元気な農業を創る」ことは、本市が活気にあふれるまちとなるために欠かせないものであります。

本市の農業は、米麦をはじめ、大都市近郊という立地条件を生かした野菜類の生産などが活発に行われています。農業委員会のたゆまぬ活動により、農地の集約や集積が着実に進んでいることは心強い限りです。しかし、農家の高齢化による離農が顕在化しつつあり、担い手の不在による遊休農地が増える傾向にあります。

本市といたしましては、こうした課題を解決する糸口として、新規就農を進めるため「担い手育成塾」を再開し若手農業者の確保に努めるとともに、高収益化を目指し「熊谷市農産物ブランド」の育成を図るなど、多角的に事業を実施してまいります。また、地域の中心となる担い手農家の経営安定を図るため、肥料価格など農業資材高騰への支援を行うなど情勢に応じた対策も迅速に進めてまいります。

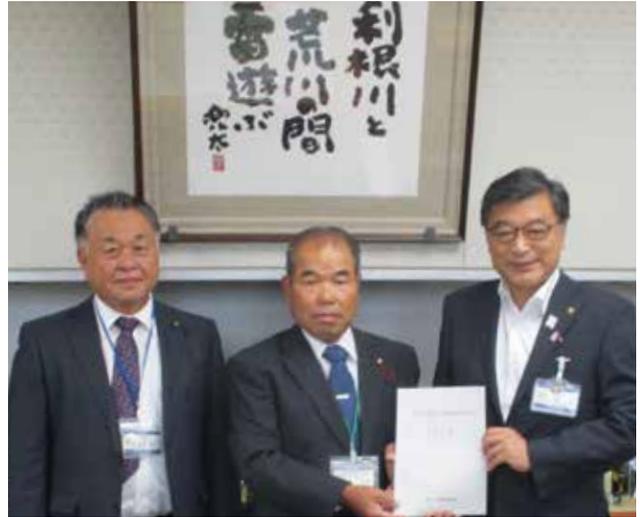
こうした施策が高い効果を上げるためには、農家の皆様、農業委員、農地利用最適化推進委員皆様の御協力が欠かせません。「元気な農業を創る」ため、皆で知恵を出し合って前へ進んでまいりたいと存じます。

結びに、本年が災害の無い、平穏な年となりますよう、また、皆様にとりまして良い年となりますよう祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。

令和5年度 熊谷市農業施策に関する意見書を提出

農業委員会では、農業に関する専門的立場から法律に基づき、熊谷市の農地利用の最適化をより効果的かつ効果的に実施するために必要な施策の改善等について意見を取りまとめ、10月5日、木部農業委員会会長、夏目会長職務代理から小林市長に意見書を提出しました。

遊休農地対策や農地の有効活用、担い手の育成と支援などについて、9項目にわたって提言をしています。中でも増大が懸念される遊休農地の対策について、農作業受委託の受け皿の創設、農業資材の高騰に対する支援や、今後推進される農地中間管理事業に関する丁寧な説明などを行うよう、小林市長に対して木部会長、夏目職務代理から要望を行いました。今後も、熊谷の「元気な農業を創る」ため、農業委員会が一丸となって活動し、意見を表明してまいります。



第4回

農地中間管理事業を知ろう！

最終回は農地中間管理事業を開始するまでの流れについてご紹介します。

農地中間管理事業は、実施地区や契約条件(契約期間、賃貸借料、用水費等の負担先など)を地域の話し合いにより決定し、事業に取り組みます。

地域から中間管理事業の相談を受ける

耕作者、農業委員等からの要望や人・農地プランの話し合いがきっかけとなることもあります。

事業の説明会、地域での話し合い

耕作者などを集め会議を開催し、地域全体で事業への理解を深め、推進の気運を高めます。

実施地区、契約期間、賃貸借料等の案を決定

耕作者を集め契約条件などを決定します。事業では6年以上の貸借期間が必要なため、将来にわたり耕作者が引き受けられる条件を決めることが多いです。

地権者への説明会

中間管理事業の制度や契約条件(案)を説明します。事業や契約条件等についての意見・質問なども伺います。

手続書類の受領会

契約内容が確定後、地権者に手続書類を送付し受領会を開催します。耕作者の書類もこの段階で受領します。

配分会議

事業へ貸付希望のあった農地に対し、誰がどの土地を耕作するか話し合います。

貸借契約が成立

話し合い開始から契約成立まで通常1年ほど掛かります。

注)農地中間管理事業では、統一した貸借条件を設定する必要があるため、地区を設定し、事業を進めています。現在までに15地区で実施しています。

◆農業振興課 ☎048-588-9990

★農地中間管理事業の仕組みについてわからない点があったらお気軽にご相談ください

令和4年度 埼玉農業大賞に輝く！

地域貢献部門大賞受賞

くぼ たしゅうじ やすし よしえ
久保田修司さん、康士さん、淑枝さん(熊谷市万吉)



人気の久保田農園
トマトジュース

11月15日、さいたま市浦和区の知事公館で、令和4年度埼玉農業大賞の表彰式が行われました。

地域貢献部門で大賞を受賞された久保田さんは、地域で初めて直売型のトマト経営を確立し、完熟した良食味のトマトを自宅直売所で販売しています。46年にわたり農業大学校の学生や新規就農希望者等の研修生を受け入れ、埼玉県への担い手育成に大きく貢献してきました。地元小中学生、高校生の体験学習も受け入れ、子供たちの農業への関心、地域住民の農業への理解を醸成しています。

令和4年度「熊谷ファームラボ」認定プレーヤー決定！



「熊谷の顔」となる農産物や加工品を発見・育成し、ブランド認証することをビジョンとして昨年1月に策定された「熊谷市農産物ブランド化戦略」に基づき事業展開する「熊谷ファームラボ」プロジェクトにおいて、ブランド化に意欲のあるプレーヤーの公募を行いました。農産物11件、加工品5件の申請があり、10月24日に認定審査会を実施し、厳正なる審査の結果、農産物2件、加工品1件を「熊谷ファームラボ」認定プレーヤーとして決定しました！

認定プレーヤーの皆様は、これから熊谷市農産物ブランド化推進協議会のサポートにより、「熊谷の顔」となるブランドを目指していきます。

令和4年度「熊谷ファームラボ」認定プレーヤー

認定番号：農産物 第1号

株式会社熊谷青果市場

代表取締役社長 飛田 修 氏

認定対象：ロロンかぼちゃ(ナイストライかぼちゃ)

認定番号：農産物 第2号

浅見農園 浅見 佳春 氏

認定対象：「おおももの」とうもろこし

認定番号：加工品 第1号

株式会社沢田本店

代表取締役社長 澤田 真弘 氏

認定対象：栗・ブルーベリー・妻沼茶豆等の
一次加工品
菓子・総菜

★継続する重み、新しいアイデア 熊谷農業を盛り上げています

優良農家表彰

12月23日優良農家が表彰されました。今年は、2個人1法人が表彰されましたので紹介します。(順不同)



飯嶋 竹夫さん

板井 【部門】主穀

小原営農組合副組合長
前農地利用最適化推進委員
元小原種子組合長
認定農業者
大豆の減農薬栽培に取り組むとともに、地域の大豆栽培の拡大に貢献している。
種子組合の組合長として、優良種子の栽培を推進した。



高橋 富司夫さん

男沼 【部門】園芸露地

元熊谷市地域指導農家
認定農業者
ネギ、大和芋と緑肥の輪作体系を確立し、連作を回避するとともに、減農薬栽培に取り組んでいる。
地域指導農家として研修生を受け入れ若手農家を指導した。



有限会社

ファームエリーズ

代表取締役 飛田 博次さん

男沼 【部門】園芸露地

S-GAP取得
認定農業者
土づくりにぼかし堆肥を投入するとともに、減農薬栽培に取り組んでいる。栽培管理カードへの記入により、栽培過程を明確化し、安心安全な野菜の証明に取り組んでいる。機械の導入と雇用の増加に取り組み、規模拡大を図っている。

熊谷の歴史と食文化

「盆と正月がいっぺんに来た」。食生活が豊かになる前の時代を知る人が、豪華な食事を前に語る一幕があります。大切な客人を迎えるために走り回ることを語源とする「御馳走」は、後に食事のもてなしを意味するようになりました。

日本近代経済の父といわれる渋沢栄一は若い頃熊谷を訪れ、妻沼聖天山で食事を御馳走になったことを記しています。晩年には、現在の熊谷市名勝「星溪園」で昼食を楽しむなど、熊谷の食を味わったことが知られています。

熊谷は荒川と利根川の流れや、豊富な湧水の恩恵を受けながら、人々の生活が営まれてきました。縄文時代前半は狩猟採集社会と考えられ、クリ・クルミなどの木の实、川魚類を捕獲し食料としました。

縄文時代中期、江南地域では、シカやイノシシなどの動物を捕獲するための「落とし穴遺構」が確認され、肉食生活の原点を見ることができます。弥生時代に至ると大陸から米作りが伝えられました。

熊谷ラグビー場付近に位置する弥生時代中期の北島遺跡では、「かんがい施設」が出土したほか、東部の池上遺跡では、弥生時代の米粒が発見されました。

江戸時代以降、熊谷名物のうどんは郷土の食文化として定着しました。明治時代、麦王(麦翁)・権田愛三は、麦作の改良に力を注ぎ、生産量の増大に貢献しました。戦後、熊谷地域は本州最大の小麦生産地となり、地粉を活用した「熊谷うどん」は人気を集めています。つけ汁で、ゴボウのきんぴらやハウレンソウ、ヤマトイモを添えるなど独自のレシピが生まれました。近年、熊谷ではうどん文化の発信拠点として注目を集めています。

執筆：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹



埼玉県農業経営・就農支援センター (埼玉県農業経営相談所)のご紹介 大里農林振興センター

「法人化したいが判断がつかない」「雇用環境を整備したい」「知的財産を守りたい」「ブランド化したい」「事業継承したい」など、農業者が抱える経営課題は広範囲かつ専門性が高くなっています。

農林振興センターでは普及指導員が相談者とともに「経営課題」を明確にし、必要に応じて埼玉県農業経営・就農支援センター(埼玉県農業経営相談所)の機能を活用して課題解決のお手伝いをしています。

埼玉県農業経営・就農支援センター(埼玉県農業経営相談所)では、県、専門家、関係機関が連携して課題解決に向けた経営戦略を策定して、伴走支援を実施します。

熊谷市では平成30年度以降、埼玉県農業経営相談所の支援により6つの農業法人が設立されています。

埼玉県農業経営・就農支援センター
(埼玉県農業経営相談所)に登録されている
専門家(専門分野の一例)

- ・税理士(税務会計の相談)
- ・社会保険労務士(労務管理(就業規則など)の相談)
- ・司法書士(法務・登記の相談)
- ・行政書士(法人化手続の相談)
- ・弁理士(知的財産権の相談)
- ・中小企業診断士(経営分析、経営改善計画の相談)
- ・デザイナー(商品デザインの相談)
- ・6次産業化(6次化産業化に関する商品開発の相談)
- ・農業法人経営者(組織運営、経営管理の相談)

☆埼玉県農業経営・就農支援センター(埼玉県農業経営相談所)では、令和4年4月11日現在で、9分野67名の専門家が登録されています。

◆大里農林振興センター農業支援部
☎048-526-2210



令和4年度 熊谷市農地パトロール 結果の公表

遊休農地の面積は**96.8ha**
昨年から約3ha増加

農業委員会では、8月から9月に、農業委員と農地利用最適化推進委員が協力し、市内全域の農地パトロールを実施しました。

単位(m²)

新たな遊休農地	再発生遊休農地	解消された遊休農地	令和4年度遊休農地
77,258	64,430	111,299	968,429

★農業の法人化 話を聞くことから始めてみませんか

令和5年度申告 ～事業所得等申告相談会のご案内～

確定申告や市民税・県民税申告に先立ち、令和4年分の農業の収入や必要経費の計算方法、その他申告全般に関して不明な点がある方を対象に下記のとおり相談会を開催します。

開催日	令和5年2月1日(水)～3日(金) (電話による事前予約が必要です)
会場	熊谷市役所1階ホール 北側特設会場
受付時間	午前の部 ① 9時～10時 ② 10時～11時 ③ 11時～12時 午後の部 ④ 13時～14時 ⑤ 14時～15時 ⑥ 15時～16時

※事業所得等申告相談会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、**完全予約制**となっています。

ご希望の方は市民税課へ事前にご連絡ください。実施困難時には個別にご連絡する場合があります。

※ご自身で収支計算できる場合や、税理士等に依頼される場合には参加は不要です。

※青色申告の方は熊谷税務署(☎048-521-2905)にご相談ください。

予約・問合せ ◆市民税課 ☎048-524-1111 内線246・247

女性委員として活躍してみませんか

全国では、農業従事者の4割を女性が占めていますが、農家と農家、農家と行政をつなぐ架け橋の農業委員、農地利用最適化推進委員として活躍する女性は少ないのが現状です。令和6年9月から新しい委員の任期が始まります。地域で今のうちから女性委員の推薦などについて話し合いを進めましょう。興味のある方はお気軽に農業委員会事務局までお尋ねください。

◆農業委員会事務局 ☎048-501-5501



農業者年金に加入しませんか

農業者年金は、国民年金に上乘せすることで、将来もらえる年金額を増やすことを目的とした年金制度(確定拠出型年金)です。

- ◎対象 年間60日以上農業に従事し、国民年金第1号被保険者(保険料納付免除者を除く)である60歳未満(国民年金任意加入者は65歳未満)の方
- 終身年金です。生きている間は、一生貰えます。
- 納めた保険料の全額が、社会保険料控除の対象になります。節税しながら、老後の蓄えが出来ます。

◆農業委員会事務局 ☎048-501-5501



★農業の発展のために いろいろな立場の視点が求められています

よもやま話

農業の革新

西部第2地区 伊藤 由行



私は、現在合同会社道上営農支援グループの一員として農業に勤んでいます。2018年4月3日に会社が設立され、農地所有適格法人としての認定もいただき、現在にいたっています。

社員数は10人で、将来の地域農業のあり方を考え、補助エリアの農家に対する人的、機械的支援等を行うと共に自らも農業を実践してより効果的な次世代農業を目指して頑張っています。

私が子どもの頃の昭和30年代後半は、3ちゃん農業といわれ、じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんが主役で仕事をしていました。この頃の農家は、自給自足が基本で、米麦はもちろん醤油味噌まで作ってしま

た。近くにコンビニがあるわけではなく、自分たちが作って自分たちが食べるのが当たり前でした。この頃の農作業は、全てが手作業で3ちゃんが主役で仕事をしており、国会でも3ちゃん農業が使われて、流行語にもなりました。高度経済成長期には会社勤めの人達が田植え、稲刈り等もっとも忙しい時にだけ農業を手伝う生活が一般化し、専業農家も少なくなり、兼業農家が日本の大部分を占めるようになりました。機械化によって少ない労力で農業の仕事が出来るようになり、スマート農業などと言われるように日々進化している中で働き方も変革しています。

週末だけ農業を行うこと、農業も行い自営業もするそんな働き方もあり、一人でも多く農業に携わる人が増えて、遊休農地や担い手不足解消になるように私も少しでもお手伝いが出来ればと思っています。

ひとりつぶやき

東部第2地区 漆原 秋夫



私の集落では、昔は20軒程の農家の集落でしたが、その後住宅が増え続け、現在では120軒程の集落になりました。家は増えましたが、農家はだんだん減り始め、今では7軒程になりました。来年は、また1軒やめる話を耳にしました。農地利用最適化推進委員になり1年が過ぎ、最近目につくことがあ

ります。休耕地や荒れ果てた農地が気になるようになり、なぜこの集落で農業が出来ないのか、何が原因なのかを考えてみました。まず、農地が整備されていない、耕作者の高齢化や後継者がいない、また機械化になり機械が高額のために機械の更新ができず辞める人が増えていると考えます。農家は減り、この集落では農業をやっている人はいなくなるのでは…。と毎日パトロールをしていて、今日も一人つぶやいています。

編集後記

あけましておめでとうございます。

本年も昨年と同様新型コロナウイルス感染拡大が懸念されます。皆様も健康に御留意され一年をお過ごしくださるよう祈っております。コロナ禍にもかかわらず、農委だより第71号発行に当たり、多くの方々や、諸団体の皆様からの話題の提供に対し感謝申し上げますと共に、今後発行される農委だよりにつきましても情報提供くださるようお願いしております。

(編集委員 栗原 一森)

編集委員

委員	長	森 田	豊
副委員	長	中 嶋	儀
委員	員	福 島	清
委員	員	石 井	芳 夫
委員	員	栗 原	一 森
委員	員	吉 田	正 己
委員	員	柿 沼	憲 雄
委員	員	林	和 弥
委員	員	木 部	富 次
委員	員	夏 目	亮 一